様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成２３年４月２８日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究Ｂ
研究期間：平成２０年度　～平成２３年度
課題番号：２０３２０１００
研究課題名（和文）　古記録の史料学的な研究にもとづく室町文化の基層の解明

研究課題名（英文）　The research of the human relation on which Muromachi culture was based, using the old diaries of aristocrats and priests.

研究代表者　榎原　雅治（東京大学史料編纂所教授）

研究者番号：　４０１６０３７９

研究分野：史学
科研費の分科・細目：日本史
キーワード：古記録　室町時代　室町文化

１．研究計画の概要

室町時代は、いわゆる「日本的な」文化様式や美意識の成立した時代だとされる。その文化は、公家・武家・僧侶・町衆など異なる階層それぞれで育まれてきた文化要素の接触と混淆から生じたと考えられる。したがって、当該期における諸階層の文化的な営為や、階層をこえた人的交流の実態を明らかにすることは、日本の伝統文化成立の基層を解明するうえで必須だといえる。

ところが、文化史研究の現状は、東山文化の推進者とされる足利義政や、著名な連歌師・茶人・絵師など、文化史上における頂点的な人物に焦点をあてた研究が大半であり、室町文化の広大な裾野を形成した、文化史的には無名な人々の文化的な営為や、人的交流の具体相についての研究は進んでいない。その理由の大なるものとして、当該期の研究のための史料的な環境が十分に整備されていないことが挙げられる。具体的には、以下のような問題である。

・室町時代の古文書は分量が厖大であり、『平安遺文』『鎌倉遺文』のような集成が行われておらず、当該期の文書を通観する術がない。
・室町時代の文化を研究するために重要な史料でありながら、全容の明らかでない古記録が存在している。
・その存在は既知であるが、自筆原本の接続の混乱、諸写本の比較検討の困難さ、などの理由から公刊に至っておらず、拠るべき底本が不明確な古記録が多数存在する。
・平安・鎌倉時代については、主要な古記録の相当部分の全文ＤＢが作成されているのに対し、室町時代の古記録の全文ＤＢ化は寥々たる状況にある。
・平安・鎌倉時代と比べて、人名索引などのツール類の整備も進捗していない。

このような史料的な環境の制約により、当該期の人物の文化的な営為や人物間交流に関する史的研究は、先行する鎌倉時代と比較しても大きく立ち遅れている。そこで本研究は、史料的な環境を整備することで、具体相の集積を多角的・効率的に果たし、伝統文化そのもののありようの多様さを解明しようとするわけである

２．研究の進捗状況

①室町時代の古記録のうち、まとまった分量をもちながら未翻刻のものの諸本整理と解読を進めている。解読した成果は、いずれもフルテキストデータとして活用できる形式である。現在の進捗状況は次のとおりである。

・「兼宣公記」については、国立歴史民俗博物館、国立公文書館、下郷共済会などに所蔵される諸本の比較調査、ならびに歴史民俗博物館所蔵広橋家旧蔵典籍に含まれる断簡の収集を終えた。解読もほぼ終え、現在、原本による校正、および登場人物や記述内容についての研究を進めている。また成果を『史料纂集』として刊行する準備を進めている。
・「碧山日録」については、諸本の研究を終えるとともに、登場人物、記述内容についての研究を進めている。また成果を、『大日本古記録』として刊行する準備を進めている。
・「綱光公記」については、国立歴史民俗博物館所蔵の調査と解読を行い、現在『東京大学史料編纂所研究紀要』に分割掲載中である。
・本研究の開始後に発見された国立歴史民俗博物館所蔵「中原師胤記」の史料的性格についての解明と本文解読を終え、現在原本による校正を進めている。成果を刊本によって公開する準備を進めている。
・宮内庁書陵部所蔵「宗賢卿記」、東京大学史料編纂所所蔵「高倉永豊卿記」、興福寺所蔵「東院

毎日雑々記」(東京大学史料編纂所所蔵写本による）の解読を継続中である。
②室町時代中期の根本史料である「蔭凉軒日録」の全文ＤＢを完成し、東京大学史料編纂所ホームページで公開した。
③すでに刊本のある「親長卿記」について、その索引を作成し、『東京大学史料編纂所研究成果報告』として刊行した。

３．現在までの達成度
目標とする成果の７５％程度を達成している。

４．今後の研究の推進方策
継続中の史料解読と校正を完了させ、研究期間の終了後早期に成果を公開することができるように準備を進める。またこの研究において達成された室町期の史料的環境の向上を踏まえ、室町期における人物の文化的営為や人物間交流に関する研究を進め、研究期間内に研究集会を開いて各グループにおける成果について検討し、成果報告書を作成する。

５．　代表的な研究成果（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
榎原雅治
「『兼宣公記』応永二十九年記の錯簡について」（『東京大学史料編纂所研究紀要』20、2010年）
末柄　豊
「『不問物語』について」(『年報三田中世史研究』15、2008年）
「畠山義総と三条西実隆・公条父子―紙背文書からさぐる―」(『加能史料研究』22、2010年）

〔学会発表〕（計３件）
榎原雅治
「中世地域社会における宗教活動と民衆」(民衆史研究会大会、2008年）
「保安寺について」（東寺文書研究会、2009年）
「島津家久公の上洛の旅」(黎明館講演会、2011年）

〔図書〕（計７件）
榎原雅治
『中世の東海道をゆく』（中央公論新社、2008年）
『新体系日本史　政治社会思想史』(山川出版社、2010年）
本郷恵子
『京・鎌倉ふたつの王権』小学館、2008年）
『将軍権力の発見』【講談社、2010年
『物語の舞台を歩く　古今著聞集』(山川出版社、2010年）
末柄　豊
『日本の歴史　武士の世の幕あけ』（小学館、2010年）
『細川幽斎―戦塵の中の文芸―』（笠間書院、2010年）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕